

第1回会議の振り返り

1. 会議の概要
2. 委員の主な意見

特命推進課
令和4年9月14日

1. 会議の概要

○ 令和4年度万国津梁会議の進め方について

昨年度とりまとめた中間報告の振り返りを行い、今年度の万国津梁会議の進め方とスケジュールについて確認した。

○ 県の関連施策の状況について

県の関連施策の状況について確認した上で、今後の提言を具体的な施策にどのような形で反映させいてくか意見をいただいた。

○ 具体的な事例検討の方向性について

中間報告の「具体的な事例等を踏まえた議論」を行うにあたり、具体的な事例調査や関係者へのヒアリング実施などについて説明し、意見をいただいた。

2. 委員の主な意見

議題①県の関連施策の状況について

- ◆ 万国津梁会議で提案した内容が、今後具体的に県の政策としてどのような形で対応していくのかということを議論してもいいのではないか。
- ◆ 今回の提言は、県の関連施策を効果的に実施していくための方向性を提案することを共通の認識とする必要がある。

議題②具体的な事例検討の方向性について

提案1 持続可能な仕組みづくり

- ◆ 持続可能な仕組みづくりについては、コロナを経験した今、コロナにより継承が危ぶまれている文化を具体的な事例で示し共有することが必要。

提案2 文化的価値の普及・啓発

- ◆ 現状の教育環境において、沖縄の歴史文化教育をどう有効的に行うかという視点が必要。
- ◆ 歴史文化教育においてもデジタルの活用を考えていく必要がある。また、専門家を派遣し、教材化をして先生方の負担になることなく授業に取り入れやすい形をつくっていく必要がある。
- ◆ 離島に企画プロデュースができるような人材やそのような人材を育成する仕組みが必要。

2. 委員の主な意見

議題②具体的な事例検討の方向性について

提案3 新たな価値(魅力)の創出

- ◆ どのように外部の方に沖縄の文化の魅力を伝えるのか工夫が必要。
- ◆ (観光など)異なる分野との連携においては、異なる分野の関係者が文化への理解度を高めていくことが必要。
- ◆ 最新デジタル技術を活用した取組は、沖縄県として戦略をきちんと練るべき。

その他のご意見

- ◆ ウチナーンチュ大会と関連させた取組があってもいいのではないか。
- ◆ スポーツ空手の普及と伝統空手の継承のいずれを推進するのか、沖縄県が目指す方向性を示し、海外の人々にも共有することが必要。